

巨大地震 実地で対策

AMDA医療チーム

南海トラフ巨大地震が発生した場合に大きな被害が予想される徳島、高知両県沿岸部への支援のあり方を検討している国際医療NGO「AMDA」(北区)は、両県への医療チームの派遣訓練を9日に初めて実施する。5チームが総社市などを出発し、高知、徳島両県の沿岸地域に向かう。チームごとに交通手段や経路を変える予定で、AMDAは「所要時間などを確認するほか、机上訓練では予測できない課題を洗い出したい」としている。

訓練は、自治体や医療機関などの協力も得て行う。冬の朝にマグニチュード(M)8・6の地震が発生し、両県沿岸などに大津波警報が発令されたとの設定で、AMDAは、総社市消防本部に同市と合同

徳島、高知へ派遣訓練 9日

で災害対策本部を設置。医療や調整役らで構成するチームが、総社市と徳島県阿波市から車で高知県黒潮町と徳島県美波町の活動拠点医療機関に向かう。

交通手段と経路はチームごとに変え、一部はヘリコプターや海上タクシーも使用する。また、2県と総社市や四国6市町と合同で、衛星携帯電話などでやり取りをする。

AMDAによると、計画を作成している段階で、ヘリコプターの離着陸や燃料給油が可能な場所が確認できるなどの成果があったという。当口は、大きな被害が想定される沿岸地域や活動拠点までの所要時間のほか、災害発生時に通行困難になる場所などを調べることになっている。